



## 4期生へのお祝いのことば

## 4期生が残した『レガシー(遺産)』

4期生担任 田邊正明

令和4年3月25日、4期生の院生の皆様に教職修士の学位が授与されます。大変重く、価値があり、目出たいこととございます。心より祝福申し上げます。

また、関係教育委員会様や所属校・長期実習校様並びにご家族を含めた関係の皆様、大変お世話になりました。ご支援・ご協力に感謝申し上げます。担任としてもお礼申し上げます。

コロナ禍で始まり、コロナ禍で終わる。そんな言葉がぴったりの4期生でした。しかし、4期生は、大学院の授業や実習に対して、革命的な変換をもたらしました。従来型の授業や実習をハイブリッド型に転換させたことです。Zoomに代表されるオンライン化は、試行錯誤を繰り返しながら、対面が必要なものとオンラインで良いものを適正に選択しながら授業や会議に対して効率化・能率化を図りました。その導入については、従来との比較で、いろいろとネガティブな意見もありますし、皆さんが意図も希望もしていないことも現実ですが、この変革は、間違いなく4期生がこの教職大学院に残した『レガシー(遺産)』に成ったと思います。

最後に、皆さんに、先輩たちと同じように、今後の活躍を期待します。幸多き人生の中で、教職大学院生活の思い出や人との出会いが「心のレガシー」として、輝くことを祈ります。

## 2年間をふりかえって

## ～4期生が教職大学院で学んだこと～



浅井 慎哉	教育について深く考え、教師という仕事にじっくり向き合った2年間でした。何よりも現職の先生や学部新卒の院生と講義や院生室で語り合うことができたことが、私の教育に対する見方・考え方を耕すことにつながったと感じています。教職大学院での学びは終わりになりますが、教師としての学びに終わりはありません。新たなスタートラインに立ち、明日からの実践に意欲を燃やしています。
坂倉 伊織	教職大学院で過ごした時間は長いようでとても短くとても充実した時間となりました。入学した当初はオンラインでの学習が中心となり不安もありましたが、次第に対面での授業も増え、他者と共に学ぶことの楽しさを実感することができました。4期生のメンバーみなさんと出会い、共に学べたことがなによりも自分は幸せでした。ありがとうございました。
白鷹 直樹	これまでの教職生活を見つめなおし、新たな知見を頂ける機会を与えていただいた2年間となりました。新たな実践や理論の習得はもちろん、現場では経験することができない研究や長期実習、人との出会い等、多くのことが非常に貴重な自身の学びとなりました。今後は教職大学院で学ばせていただいた2年間の経験を現任校を中心とした市町の教育活動に還元し、少しでも貢献できるよう邁進します。
鈴木 秀	私たちは、校種も違えば、教科も違います。しかし、そのときどきの課題を共有することが、時とともに、人生を2年間といえど、共有する関係へとつながりました。一人では決して見ることのできない風景だったと思います。この機会を与えてくださった皆様に、かけがえのない4期生の友人たちに心よりお礼申し上げます。
田中 真弓	教職大学院で過ごした2年間は、これまでの教員生活を振り返る良い機会となりました。連携校や東紀州実習では、授業見学、実践を通してたくさんの学びや経験をすることができました。また、大学院の授業では新たな理論や実践を学んだり、学修テーマについて研究を深めたり等有意義な時間を過ごすことができました。今後は学んだことを現場に還元していきたくと思います。ご指導いただいた先生方、共に学んだみなさん、ありがとうございました。

谷中 聖子	教職大学院では、教育について語り合える仲間たちとの出会いが私の財産となりました。縁あって出会えた17人だと思っています。そんな仲間たちと過ごした2年間は、これまでの自分を振り返ることができ、また教師として成長するための貴重な時間でもありました。なにより今まで自分が大事にしてきたことは間違っていないと気付けたことは大きかったです。教職大学院での学びを生かし、これからの教師生活も全力で努める決意です。
永合 本幸	本当にかけがえのない貴重な経験をさせていただいた2年間でした。教育について一歩外から考え、高い志をもつ教職大学院のみなさんと共に学ぶことができたことで、知見を深めることができました。これからも自己研鑽に励み、学び続ける教員でありたいと思います。このような機会をいただき、皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。
長谷川 真大	「何のために学校教育はあるのか」「何のために他者と学ぶのか」教職大学院での学びを通して、改めて「公教育」の本質・意義を考えさせられた2年間となりました。教育には限りがなく、また絶対的な正解もありません。先生方や仲間のおかげで、自分の中の凝り固まった「教育観」を打破できたことが大きな学びの一つとなりました。
藤井 俊	様々な学びを得た2年間であったと同時に、これまでとは状況が大きく変わったことで、学校の存在意義を考え続けた2年間でした。学校が「誰かと何かをするっていいな」「誰かがそばにいてくれるとうれしいな」と感じる場であるように、これからも人とのつながりを大切に歩んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。
米川 佳伸	自身の研究はもちろん、連携校・東紀州実習での経験や学校組織を学ぶことを通して、現場では経験できない学びをすることができた貴重な2年間でした。大学院の先生方、4期生の仲間と学べたことで、自分の視野や考え方が大きく変わったと思います。この経験や学びを生かして、今後も教師という仕事を邁進していきます。ありがとうございました。
市橋 拓実	自分の実力が無いことを改めて痛感した2年間でした。自分が、大学院での学びと実習とをあまり結びつけることができなかったことを、実習校でお世話になった先生、生徒のみなさんに対して申し訳なく思います。この経験や教訓を通して将来に生かすことが出来るように、もう1度、自分自身を見直し、研鑽、精進します。
岩花 春美	教職大学院での2年間は、様々な出会いや、整った教育環境の中において、自分自身のこれまでの教員生活を違った視点や角度から振り返ることができた貴重な期間でした。このような経験を大切にしながら、これからも地域や社会に開かれた教育課程の実現の方法について、カリキュラム・マネジメントの観点から学び続けていきたいと思っています。
桜木 隆伍	自分が目指したい「教育観」と向き合えたことが、教職大学院での1番の学びであったと思います。1年次では理論的なことを中心に学び、2年次では自分が研究したいことを基に実践を行いました。自分思うような実践ができていないもどかしさに日々悩みましたが、この経験ができたからこそ、自分の大切にしたい「教育観」と向き合えたのだと思います。ここで学んだことを出発点として、これから現場での実践に励んでいきたいと思っています。
内藤 祐毅	教職大学院では、理論的なことを知識として身につけた上で実践を行なう授業が多く、理論と実践を融合することの大切さを学びました。また、大学の時と異なるのは、教員免許をもって実習に望むため、一教員として扱われることでした。授業者の創意工夫を活かした学習活動が行える代わりに、児童に授業に楽しさと内容を伝えることの責任の重大さを現場で体験することができました。
松岡 慶	「謙虚さ」です。実習や研究の実践において、たくさんの失敗を経験する事で、自信過剰になっていた自分の至らなさを痛感しました。この二年間の貴重な経験を生かして、どんなことも謙虚に受け止め、自分を磨き続けたいと思います。
山野 雄一郎	この2年間は、専門的な知見を有する教授の方々、そして経験豊富な現職教員学生・同じ志を持つ学部新卒学生という仲間と共に学ぶことで、常に刺激を受けながら充実した日々を過ごすことができました。講義や長期実習を経て、漠然としていた学校や教育についてのイメージがより具体的になりました。今後も「学び続ける」人生を歩んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。
山本 悠太	教職大学院の2年間では、教育の知見を深めるとともに、教育実践力を高めることができたと考えています。学修テーマを深め、学校現場で教育実習をしているうちに、自分なりの根拠を持って授業づくりや子どもへの指導・支援ができるようになったと思っています。大学院で学んだ経験を、今後活かしていきたいです。

